

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
学校教育課	小坂 貴寛

重点目標	2	確かな学力・生き抜く力を育みます
基本の方針	小中一貫教育を柱とする学校教育改革の推進により子どもの成長に応じた指導の一貫性を確保する体制を充実することで「確かな学力」を育み、あわせて、学校園、家庭及び地域が協働し、相互に連携しながら教育力の向上を図ります。 一人ひとりの個性や能力、確かな学力を育むとともに、地域社会への理解と関心を高め、グローバル化等の社会の変化に対応するなど、将来への夢と希望を基盤として未来を切り拓くことのできる「生き抜く力」を育みます。	

1. 施策の方向性

PLAN

1. 小中一貫教育の推進	①「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの「確かな学力」と「社会を生き抜く力」を育む小中一貫教育を着実に進めます。 ②中学校区を単位とした共通の目指す子ども像を設定し、その実現に向けて系統的で一貫性のある学校園の教育活動を進めます。 ③小中一貫教育等について保護者や地域の理解を得るとともに連携を深めるため、教育フォーラムを開催するなど、学校教育改革に関する情報提供の機会を拡充します。 ④学識経験者や市民、保護者及び学校園関係者等が、学校教育改革を適切に検証、評価し、取り組みの改善を進めます。 ⑤小中一貫教育等における目標の実現状況や教育活動の成果が明らかになるよう、学校評価を充実します。
2. 学校園、家庭、地域の協働による教育力の向上	①子どもの発達や学習の特性等に応じた保幼小中一貫の教育課程により、すべての学校園で就学前から中学校修了までの系統的な指導を実施するとともに、小中学校の接続期の指導を充実します。 ②教職員の授業実践力や生徒指導力を高める研修を充実します。 ③加配教職員やスクールサポーターを効果的に配置し、児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導体制を整えます。 ④京丹後市への理解を深め、郷土への愛着と誇り、地域生活への意欲を系統的に育む「丹後学」を、地域の人々の協力と参画により、すべての小中学校で実施します。 ⑤子どもたちの基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立等について、学校園と家庭が連携した取り組みを充実します。 ⑥中学校区を単位として学校園、家庭及び地域が育みたい子ども像や課題を共有し、連携・協力して進める地域の教育環境づくりを推進します。 ⑦市民が学校の教育活動を積極的に支援する学校支援ボランティアの取り組みを拡充します。 ⑧放課後における学習や体験活動の充実に向け、学校、家庭及び地域が連携し、地域ぐるみの学習環境の体制づくりを進めます。
3. 確かな学力の育成	①小中一貫教育により校種間を円滑に接続し、就学前から中学校卒業までの10年間の系統的な学習指導を実現します。 ②全国学力・学習状況調査の結果が、現在、全国・府平均を上回っている学力についても、診断結果をもとに児童生徒の学力状況をきめ細かく把握するとともに、分析結果を活用した指導改善により、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を継続的に行います。 ③すべての教科や特別活動に「言語活動」や「コミュニケーション活動」の充実を位置付け、系統的・継続的な指導を行います。 ④「丹後学」において京丹後市の学習素材を活かした体験的な学習や問題解決的な学習を行うなど、児童生徒が目的意識を持って主体的に取り組む学習を充実します。 ⑤自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等、習得した知識や技能を活用する力を育成するため、教育実践モデル校等を指定し、その実践と成果をすべての学校園に普及します。 ⑥家庭学習が定着するよう、学校と家庭が連携して児童生徒の主体的な学習習慣を育成します。 ⑦学校支援ボランティアや大学のもつ専門性を活用したり、小中学校、高等学校が積極的に連携・交流したりするなど、児童生徒の知的好奇心や学習意欲を育むための取り組みを充実します。
4. 社会を生き抜く力の育成	①子どもたちが将来、社会的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を身に付けるため、就学前教育から義務教育修了時まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進します。 ②「丹後学」において、郷土とそこに生きる人々を通じた探究活動を充実し、自己の生き方・あり方について深く考える力を育てるとともに、児童生徒の将来への夢や希望を育みます。 ③児童生徒の学習に対する興味・関心や意欲を高めるため、情報通信ネットワークやコンピュータなどのICT環境を整備します。 ④小学校低学年から英語に親しむ活動を充実するなど、国際社会に生きる日本人としての基礎的な能力を系統的に育成します。

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～平成36年度	
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力をすべての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN

DO

※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照

CHECK

ACT

1. 小中一貫教育の推進		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課					
<p>①「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの「確かな学力」と「社会を生き抜く力」を育む小中一貫教育を着実に進めます。</p> <p>② 中学校区を単位とした共通の目指す子ども像を設定し、その実現に向けて系統的で一貫性のある学校園の教育活動を進めます。</p> <p>③ 小中一貫教育等について保護者や地域の理解を得るとともに連携を深めるため、教育フォーラムを開催するなど、学校教育改革に関する情報提供の機会を拡充します。</p> <p>④ 学識経験者や市民、保護者及び学校園関係者等が、学校教育改革を適切に検証、評価し、取り組みの改善を進めます。</p> <p>⑤ 小中一貫教育等における目標の実現状況や教育活動の成果が明らかになるよう、学校評価を充実します。</p>						
1	小中一貫教育推進事業 「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指したより良い教育の実現に向けて協議会及び専門部会で調査研究を行い、小中一貫教育を推進する。	学校教育課	309	540	252	現状維持
2	小中一貫教育実践事業 「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指したより良い教育の推進に向け、市内全域で小中一貫教育を実践する。	学校教育課	5,777	5,640	5,705	現状維持
2. 学校園、家庭、地域の協働による教育力の向上		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課					
<p>① 子どもの発達や学習の特性等に応じた保幼小中一貫の教育課程により、すべての学校園で就学前から中学校修了までの系統的な指導を実施するとともに、小中学校の接続期の指導を充実します。</p> <p>② 教職員の授業実践力や生徒指導力を高める研修を充実します。</p> <p>③ 加配教職員やスクールサポーターを効果的に配置し、児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導体制を整えます。</p> <p>④ 京丹後市への理解を深め、郷土への愛着と誇り、地域生活への意欲を系統的に育む「丹後学」を、地域の人々の協力と参画により、すべての小中学校で実施します。</p> <p>⑤ 子どもたちの基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立等について、学校園と家庭が連携した取り組みを充実します。</p> <p>⑥ 中学校区を単位として学校園、家庭及び地域が育みたい子ども像や課題を共有し、連携・協力して進める地域の教育環境づくりを推進します。</p> <p>⑦ 市民が学校の教育活動を積極的に支援する学校支援ボランティアの取り組みを拡充します。</p> <p>⑧ 放課後における学習や体験活動の充実に向け、学校、家庭及び地域が連携し、地域ぐるみの学習環境の体制作りを進めます。</p>						
	授業実践力向上対策事業 授業実践力開発講座、小中一貫検証講座及び教育実践力サポート講座を開設し、教員の資質向上を図る。	学校教育課				統合(整理)
3	学習支援体制整備事業 「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、放課後を活用した教育活動を実施することにより、子どもたちの学びを支援する仕組みづくりを進める。	学校教育課	1,242	985	1,574	現状維持
4	学校支援地域本部事業《再掲》 「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、「学校のニーズ」と「地域の人の持つ力」を結び付け、学校・家庭及び地域が協力して子どもを育む環境の充実を図る。	生涯学習課	-	-	-	現状維持
3. 確かな学力の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績) 担当課					
<p>① 小中一貫教育により校種間を円滑に接続し、就学前から中学校卒業までの10年間の系統的な学習指導を実現します。</p> <p>② 全国学力・学習状況調査の結果が、現在、全国・府平均を上回っている学力についても、診断結果をもとに児童生徒の学力状況をきめ細かく把握するとともに、分析結果を活用した指導改善により、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を継続的に進めます。</p> <p>③ すべての教科や特別活動に「言語活動」や「コミュニケーション活動」の充実を位置付け、系統的・継続的な指導を行います。</p> <p>④ 「丹後学」において京丹後市の学習素材を活かした体験的な学習や問題解決的な学習を行うなど、児童生徒が目的意識を持って主体的に取り組む学習を充実します。</p> <p>⑤ 自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等、習得した知識や技能を活用する力を育成するため、教育実践モデル校等を指定し、その実践と成果をすべての学校園に普及します。</p> <p>⑥ 家庭学習が定着するよう、学校と家庭が連携して児童生徒の主体的な学習習慣を育成します。</p> <p>⑦ 学校支援ボランティアや大学のもつ専門性を活用したり、小中学校、高等学校が積極的に連携・交流したりするなど、児童生徒の知的好奇心や学習意欲を育むための取り組みを充実します。</p>						
5	教科用図書採択事業 丹後教科用図書採択地区協議会において教科用図書の調査・研究を行い、市立小中学校で使用する教科用図書の公正かつ適正な採択を行う。	学校教育課	25	150	71	現状維持

3. 確かな学力の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
6	小学校教育振興事業 副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導を実践し、学力等の向上を図る。	学校教育課	22,438	52,116	26,047	現状維持
7	小学校教育振興備品整備事業 授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、児童の主体的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。	学校教育課	11,347	10,850	10,085	現状維持
8	小学校就学援助事業 要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する児童の保護者等の経済的負担を軽減する。	学校教育課	18,452	17,937	20,578	現状維持
9	中学校教育振興事業 副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導の実践や部活動、体育大会等への参加を支援し、学力等の向上を図る。	学校教育課	29,511	26,247	37,416	現状維持
10	中学校教育振興備品整備事業 授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、生徒の主体的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。	学校教育課	7,953	7,741	8,538	現状維持
11	中学校就学援助事業 要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する生徒の保護者等の経済的負担を軽減する。	学校教育課	20,771	19,403	17,443	現状維持
4. 社会を生き抜く力の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
<p>① 子どもたちが将来、社会的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を身に付けるため、就学前教育から義務教育修了時まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進します。</p> <p>② 「丹後学」において、郷土とそこに生きる人々を通じた探究活動を充実し、自己の生き方・あり方について深く考える力を育てるとともに、児童生徒の将来への夢や希望を育みます。</p> <p>③ 児童生徒の学習に対する興味・関心や意欲を高めるため、情報通信ネットワークやコンピュータなどのICT環境を整備します。</p> <p>④ 小学校低学年から英語に親しむ活動を充実するなど、国際社会に生きる日本人としての基礎的な能力を系統的に育成します。</p>						
12	学校情報化推進事業 小中学校の情報通信ネットワークの整備・維持管理を行うとともに、情報管理の徹底と学校情報化を行う。また、ICTを活用した学習環境を推進する。	学校教育課	18,161	71,121	30,638	現状維持
13	小・中学校情報教育環境整備事業【再編交付金活用事業】《再掲》 平成26年度に整備した市内の全小中学校27校(小学校20校、中学校7校)の情報教室パソコン等について、平成30年度分のリース料を支出する。	学校教育課	-	-	-	統合(整理)
14	児童生徒国際交流事業 国際交流事業を推進することにより、語学力の向上はもとより、国際感覚をもちグローバル社会で活躍できる人材を育成する。	学校教育課	2,977	1,224	5,570	現状維持
15	外国語指導助手招致事業 自治体国際化協会(JETプログラム)の斡旋を受け、6人の外国語指導助手(ALT)を招致・任用し、小中学校で授業等の補助を行うことで、外国語教育及び国際理解教育の促進を図る。	教育総務課	26,626	25,853	27,212	現状維持
16	国際交流員招致事業 一般財団法人自治体国際化協会の「語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)」を活用して国際交流員を任用し、現代社会のグローバル化に対応する。	学校教育課	3,079	4,198	5,553	現状維持
上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業		決算額(単位:千円)			事務の改善	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課	H30決算額	R1決算額	R2予算額	評価を踏まえた今後の方向性
17	奨学金事業 経済的に困窮している世帯で勉学意欲のある生徒や学生に対し、奨学金の給付及び貸付を行い、就学を支援する。	教育総務課	11,492	8,029	12,564	改善・効率化
18	奨学基金 経済的理由により大学等への修学が困難な者に対し、奨学金を給付することを目的とした奨学基金への積立金	教育総務課	10,607	727	23	改善・効率化
19	谷口謙・未来応援基金 経済的理由により大学等への進学及び修学が困難な者に対し、奨学金を貸し付けることを目的とした谷口謙・未来応援基金への積立金	教育総務課	21	208	762	改善・効率化
		計	190,788	252,969	210,031	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本の方針	<p>小中一貫教育を柱とする学校教育改革の推進により子どもの成長に応じた指導の一貫性を確保する体制を充実することで「確かな学力」を育み、あわせて、学校園、家庭及び地域が協働し、相互に連携しながら教育力の向上を図ります。</p> <p>一人ひとりの個性や能力、確かな学力を育むとともに、地域社会への理解と関心を高め、グローバル化等の社会の変化に対応するなど、将来への夢と希望を基盤として未来を切り拓くことのできる「生き抜く力」を育みます。</p>
-------	--

	目標指標	単位	計画作成時		実績値(現状)		目標値	
			年度	年度	年度	年度		
主な目標指標	学校関係者による中学校区(学園)ごとの検証・評価・取り組みの改善のサイクルの確立(実施中学校区)	中学校区	0	H25	6学園	R1	6(全中学校区で実施)	R6
	学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の児童の割合<小学生>	%	73.2	H25	77.6	R1	80%以上	R6
	学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の生徒の割合<中学生>	%	50.6	H25	62.3	R1	70%以上	R6
	一貫性・系統性のある指導による確かな学力の定着	%	小中学校各教科の全国平均正答率		小学校算数を除く全教科全国平均以上	R1	市平均の全教科全国平均以上	R6
	将来の夢や目標を持っている生徒の割合<中学生>	%	70.0	H25	71.9	R1	90%以上	R6

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK

ACT

進捗状況区分	評価	令和元年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	○	<p>《学校関係者による中学校区(学園)ごとの検証・評価・取り組みの改善のサイクルの確立(実施中学校区)》</p> <p>各学校の関係者評価は、小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤に作成している。また、各学園の学校関係者評価の必須項目に「小中一貫教育の推進」を設定することで、学園の取組み等の検証・評価を各校園単位でPDCAサイクルにより進めることができた。令和2年度よりいよいよ学校運営協議会をすべての学園に設置し、学校の関係者評価とともに、学園全体の方針の承認や評価・検証を確実に進めていくことを目指していく。</p> <p>《学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の児童生徒の割合》</p> <p>学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の児童生徒の割合は、前年度と比べて小学生では2.0%減少したが中学生は4.5%増加した。各学園で「家庭学習の手引き」を作成・配布するなど、学習習慣の定着に向けた取組や指導の効果は表れてきているものの、小中学生とも目標値にはあと一歩届いていない状況である。引き続き、家庭学習の充実に向けた家庭との連携を日常的に進め、家庭学習習慣の定着をより図っていく必要がある。</p> <p>《一貫性・系統性のある指導による確かな学力の定着》</p> <p>全国学力・学習状況調査結果は、小学校において一部の教科で全国平均を下回ったものの、おおむね全国平均以上の学力を付けている。各校園が学力調査の結果を分析し、授業改善や個に応じた支援を丁寧に行っていることや、一貫性のある系統的な指導が確実に進んでいる成果ととらえている。引き続き、児童生徒の学力向上を図るため、各校園の授業改善や授業研究等を推進していく必要がある。</p> <p>《将来の夢や目標を持っている生徒の割合》</p> <p>将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合は、ほぼ前年度同様で、おおむね全国平均と同じ状況となっている。引き続き、キャリア教育の視点も入った「丹後学」のモデルカリキュラムを積極的に活用するとともに、生徒の自己肯定感を高める取組や小中一貫教育によるキャリア教育のより一層の推進・充実を図っていく必要がある。</p>
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

5. 今後の施策展開の考え方(令和2年～令和4年度までの主な取組)

ACT

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	28年度からの小中一貫教育の全市展開を踏まえ、学園単位によるPDCAサイクルの確立とその検証・評価に基づく小中一貫教育推進基本計画等の適切な改訂を行う。また、各学園を会場とした市教育フォーラム等の啓発活動により、教職員・保護者・地域住民への成果の明確化を図る。
	2	学園コーディネーター等の配置を継続するとともに、各学園に設置された学校・地域連携協議会の学園運営協議会(コミュニティ・スクール)への移行を令和2年度に実施し、学校、家庭、地域が連携した学習環境の体制作り、目指す子ども像に基づく学校・地域が連携した取組を推進する。
	3	保幼小中一貫教育モデルカリキュラム及び保幼小接続モデルプラン等を活用した各学園での系統的で一貫性のある指導を充実させるため、授業改善・授業研究を更に推進するとともに、全国学力・学習状況調査の学園分析結果を活用し個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。
	4	総合的な学習の時間を活用した「丹後学モデルカリキュラム」の自校園化に向けた取組と興味・関心・意欲を高めるICT機器の整備推進を図るとともに、中学生の海外派遣や児童生徒の国際交流等を推進することにより、国際社会を生きる日本人としての基礎的な能力の育成を図る。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	540千円	585千円	45千円	92.3%	(参考)当初予算額	1,066千円				
	目	02 事務局費										
	事	11 小中一貫教育推進事業										
	細事	01 小中一貫教育推進事業							課	学校教育課		
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実											
目的	「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指したより良い教育の実現に向けて協議会及び専門部会で調査研究を行い、小中一貫教育を推進する。		主な財源									
主要な事務・事業の概要	○小中一貫教育研究推進協議会（委員謝金、費用弁償） 77千円 ・協議会委員 13人（大学教授、学識経験者、PTA、学校教職員等） ・協議会の開催 2回 ・調査研究事業 小中一貫教育実施校における効果と課題の整理		○授業実践力向上研修会（講師謝金、消耗品費） 65千円 ・授業実践力向上研修会（参加者：41人） 開催日：令和元年10月10日（木） 場 所：大宮中学校									
	○学校教育連携専門部会 ・専門部会 学校運営部員 6人 ・開催回数 学校運営部会 2回		○教育フォーラムの開催 ・教育フォーラム（参加者：122人） 開催日：令和元年11月20日（水） 場 所：丹後小学校									
	○保幼小中一貫教育モデルカリキュラム第3版作成（印刷製本費） 277千円 ・作成部数：600部											
	○小中一貫教育全国サミットへの参加（旅費、燃料費等） 121千円 開催日 令和元年11月7日（木）・8日（金） 開催地 大阪府堺市 市小学校、大泉学園、さつき野学園ほか（参加者：13人）		成果・課題 ○京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラム第3版を作成し、小中一貫教育を具体的に進めるための適時性と一貫性・連続性に着目した授業改善に向け、各学校に配布、活用した。 ○小中一貫教育研究推進協議会及び学校教育連携専門部会による研究と検証を積み重ね、小中一貫教育推進基本計画に基づくより良い教育体制の整備を推進することができた。 ○引き続き、小中一貫教育を推進するための研究及び検証を進める必要がある。									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	5,640千円	6,197千円	557千円	91.0%	(参考)当初予算額	6,197千円				
	目	02 事務局費										
	事	11 小中一貫教育推進事業										
	細事	02 小中一貫教育実践事業							課	学校教育課		
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実											
目的	「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、子どもたちの育ちと指導の一貫性を目指したより良い教育の推進に向け、市内全域で小中一貫教育を実践する。		主な財源									
主要な事務・事業の概要	○小中一貫教育の実践（報償費、消耗品費、印刷製本費等） 3,705千円 ・峰山学園（授業研究会、合唱祭、部活動体験、リーフレット作成等） ・大宮学園（小中合同研修会、講演会、体験学習、リーフレット作成等） ・網野学園（SNS講演会、部活動体験、授業体験、リーフレット作成等） ・丹後学園（合同避難訓練、合唱祭、部活動体験、リーフレット作成等） ・弥栄学園（授業研究会、保幼小中行事交流、部活動体験等） ・久美浜学園（あいさつ運動、部活動体験、リーフレット作成等）											
	○特色ある学校づくりの支援（報償費、消耗品費、委託料等） 1,935千円 実施校：小学校16校、中学校6校 主な取組内容：郷土学習、環境学習、農業体験、ものづくり体験、キャリア教育、図書館教育、人権学習等											
成果・課題			○小中一貫教育の実施により、各学園が教育目標「目指す子ども像」を設定し、カリキュラムや指導方法を統一することで、学園内の小中学校が一体となった教育活動を系統的に行うことができた。 ○合唱祭等の小中連携、合同授業等の小中連携、合同避難訓練等の保幼小中連携等、学園内の小中学校が連携した教育活動の充実を図ることができた。 ○今般流行の新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、可能な範囲で活動を行っていく必要がある。									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																					
	項	01 教育総務費	985千円	987千円	2千円	99.7%																							
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額																							
	事	12 教育のまちづくり推進事業				2,078千円																							
	細事	02 学習支援体制整備事業	主な財源	府補 地域で支える学校教育推進事業費補助金(2/3) 650千円																									
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実																												
目的	「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、放課後を活用した教育活動を実施することにより、子どもたちの学びを支援する仕組みづくりを進める。																												
主要な事務・事業の概要	<p>○中学生の放課後学習支援（講師謝金、消耗品費） 982千円 学習が遅れがちな中学3年生を対象に、学習習慣の確立と基礎学力の定着、学力向上による高校進学率の向上を目的として、放課後の学習支援を行った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山中学校</td> <td>36回</td> <td>452人</td> </tr> <tr> <td>大宮中学校</td> <td>37回</td> <td>585人</td> </tr> <tr> <td>網野中学校</td> <td>20回</td> <td>660人</td> </tr> <tr> <td>丹後中学校</td> <td>48回</td> <td>949人</td> </tr> <tr> <td>弥栄中学校</td> <td>41回</td> <td>908人</td> </tr> <tr> <td>久美浜中学校</td> <td>59回</td> <td>2,269人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○職員出張旅費 3千円</p>		学校名	回数	参加人数	峰山中学校	36回	452人	大宮中学校	37回	585人	網野中学校	20回	660人	丹後中学校	48回	949人	弥栄中学校	41回	908人	久美浜中学校	59回	2,269人						
	学校名	回数	参加人数																										
峰山中学校	36回	452人																											
大宮中学校	37回	585人																											
網野中学校	20回	660人																											
丹後中学校	48回	949人																											
弥栄中学校	41回	908人																											
久美浜中学校	59回	2,269人																											
		成果・課題		中学生の学習習慣の確立と基礎学力の定着に寄与した。また、ICT機器を活用し、個々の学習進度に応じた学習支援を行うことができた。																									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	150千円	154千円	4千円	97.4%		
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額		
	事	09 教科用図書採択事業				154千円		
	細事	01 教科用図書採択事業	主な財源					
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	丹後教科用図書採択地区協議会において教科用図書の調査・研究を行い、市立小中学校で使用する教科用図書の公正かつ適正な採択を行う。							
主要な事務・事業の概要	<p>令和2年度から使用する小中学校の教科用図書について、公正かつ適正な採択を行うために、丹後教科用図書採択地区協議会において文部科学省の教科書目録に掲載された教科用図書を調査・研究した。</p> <p>○負担金、補助及び交付金 丹後教科用図書採択地区協議会分担金 150千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 構成団体（2市2町1組合） 京丹後市・宮津市・伊根町・与謝野町教育委員会 与謝野町宮津市中学校組合教育委員会 委員 教育委員会教育長 4人 教育委員会委員 16人 採択教科 新学習指導要領に基づく小学校全科 現学習指導要領に基づく中学校全科（道徳を除く） 							
			成果・課題		丹後教科用図書採択地区協議会の調査・研究結果に基づき、令和2年度から市立小中学校で使用する教科用図書について、公正かつ適正な採択を行うことができた。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	02 小学校費						94.2%				
	目	02 教育振興費	52,116千円	55,311千円	3,195千円	(参考)当初予算額						
	事	01 小学校教育振興事業				47,156千円				課	学校教育課	
細事	01 小学校教育振興事業		府補	きょうと地域連携交付金(教育振興事業)					14,830千円			
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源									
目的	副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導を実践し、学力等の向上を図る。											
主要な事務・事業の概要	<p>教室内での学習活動のほか、各学校の創意工夫や独自性を活かしたさまざまな教育活動に取り組んだ。</p> <p>○報償費 1,329千円 ・入学記念品(395人分) 299千円 ・卒業記念品(445人分) 1,030千円</p> <p>○旅費 1千円 ・費用弁償(大地の学習講師費用弁償) 1千円</p> <p>○消耗品費 43,065千円 学用品、理科実験費、学力検査、指導書(教職員用)ほか</p> <p>○印刷製本費 192千円 社会科副読本「わたしたちのきょうたんご」400部 ※3年生用</p>		<p>○委託料 5,173千円 ・スクールバス定期外運行運転委託料 5,173千円</p> <p>○使用料及び賃借料 2,351千円 ・自動車借上料 2,107千円 ・有料道路通行料 219千円 ・駐車場使用料 25千円</p> <p>○負担金、補助及び交付金 5千円 ・大会参加負担金 5千円 第6回山陰海岸ジオパーク小学生駅伝競走大会：出場校 橋小学校 開催日：令和元年10月26日(土) 場所：但馬ドーム周辺駅低コース</p>		<p>成果・課題</p> <p>学校内での学習活動に加え、各学校の創意工夫や独自性を活かしたさまざまな社会活動、体験活動などの校外学習を行うことで、児童の基礎学力の向上や社会を生き抜く力を高めることができた。</p>							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	02 小学校費						95.8%				
	目	02 教育振興費	10,850千円	11,316千円	466千円	(参考)当初予算額						
	事	02 小学校教育振興備品整備事業				10,055千円				課	学校教育課	
細事	01 小学校教育振興備品整備事業		国補	理科教育設備整備費等補助金(1/2)					737千円			
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源	寄附金	ふるさと応援寄附金					700千円		
目的	授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、児童の主体的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。			繰入金	ふるさと応援基金繰入金					3,000千円		
主要な事務・事業の概要	<p>学習環境を整えるため、必要となる教材備品を購入した。図書については、充足率の向上に努めるよう整備を行うとともに、学校図書館蔵書管理システムを使用して管理を行った。</p> <p>○需用費 157千円 ・修繕料(教材備品の修繕)</p> <p>○役務費 5千円 ・家電リサイクル料(テレビ1台)</p> <p>○使用料及び賃借料 724千円 ・ソフトウェア使用料(全小学校分) (学校図書室蔵書管理システム用)</p>		<p>○備品購入費 9,964千円 ・教材備品整備 5,175千円 (内、ふるさと応援寄附金充当額 540千円) ・学校図書整備 3,315千円 (内、ふるさと応援寄附金充当額 160千円) ・理科教育等設備整備(理科・算数備品) 1,474千円</p>		<p>成果・課題</p> <p>新学習指導要領の実施に向け、計画的な学習教材、教育備品及び学校図書の整備に努めるとともに、理科(算数)教育設備については、国の補助金を活用し計画的に整備を行うことで、学習指導要領に沿った教育環境を整えることができた。</p>							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	02 小学校費	17,937千円	18,086千円	149千円	99.1%	(参考)当初予算額					
	目	02 教育振興費						21,315千円				
	事	03 小学校就学援助事業										
細事	01 小学校就学援助事業	国補	就学援助費補助金(1/2)		101千円	国補	特別支援教育就学奨励費補助金(1/2)		533千円			
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実											
目的	要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する児童の保護者等の経済的負担を軽減する。		主な財源									
主要な事務・事業の概要	○就学援助費 16,869千円 ・要保護認定者 19人(H30:21人) 202千円 修学旅行費 96千円 医療費 106千円 ・準要保護認定者 235人(H30:239人) 14,835千円 学用品費等 4,038千円 給食費 9,552千円 修学旅行費 988千円 医療費 257千円 ・準要保護認定者(被災児童) 2人(H30:2人) 112千円 学用品費等 32千円 給食費 80千円 ※申請者数 291人(H30:296人) 認定者数 256人(H30:262人) ・令和2年度新入学児童生徒学用品費入学前支給分 1,720千円 支給者数 34人 ※令和2年2月21日支給		○特別支援教育就学奨励費 1,068千円 ・対象者 34人(H30:37人) 学用品費等 370千円 給食費 648千円 修学旅行費 50千円									
			○就学に必要な学用品費、給食費、修学旅行費等を支援することで、対象児童の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○新入学児童生徒学用品費の入学前支給を行ったことで、新入学児童の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○制度内容の周知を徹底するとともに、世帯状況や家計状態などを考慮し、公正かつ適正な援助に引き続き努める必要がある。		成果・課題							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	26,247千円	26,687千円	440千円	98.3%	(参考)当初予算額					
	目	02 教育振興費						30,367千円				
	事	01 中学校教育振興事業										
細事	01 中学校教育振興事業	府補	きょうと地域連携交付金(教育振興事業)		7,470千円							
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実											
目的	副読本や学習教材を有効に活用するとともに、地域の特性を取り入れた学習指導の実践や部活動、体育大会等への参加を支援し、学力等の向上を図る。		主な財源									
主要な事務・事業の概要	教室内での学習活動のほか、各学校の創意工夫や独自性を活かしたさまざまな教育活動や異なった学年が参加する部活動に取り組んだ。 ○報償費 1,084千円 ・入学記念品(446人分) 249千円 ・卒業記念品(460人分) 835千円 ○需用費 9,455千円 ・消耗品費 9,114千円 学用品、理科実験費、学力検査、指導書(教職員用)ほか ・印刷製本費 341千円 社会科副読本「京丹後市の歴史」500部 ※令和2年度入学の新中学1年生用 ○役務費 58千円 ・楽器運搬手数料(峰山、大宮中学校吹奏楽部) 58千円		○委託料 11,054千円 ・スクールバス定期外運行運転委託料 11,054千円 ○負担金、補助及び交付金 4,596千円 ・体育大会等選手派遣費補助金 4,596千円									
			学校内での学習活動に加え、各学校の創意工夫や独自性を活かしたさまざまな社会活動、体験活動などの校外学習を行うことで、生徒の基礎学力の向上や社会を生き抜く力を高めることができた。		成果・課題							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	7,741千円	8,029千円	288千円	96.4%		
	目	02 教育振興費				(参考)当初予算額		
	事	02 中学校教育振興備品整備事業				7,531千円	課	学校教育課
	細事	01 中学校教育振興備品整備事業	国補	理科教育設備整備費等補助金(1/2)	122千円			
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源	寄附金	ふるさと応援寄附金	300千円			
目的	授業に必要な教材備品や学校図書を計画的に整備することで、生徒の主体的、意欲的な学習活動を充実させ、学力の向上を図るとともに豊かな心を育む。	繰入金	ふるさと応援基金繰入金	2,000千円				
主要な事務・事業の概要	<p>学習環境を整えるため、必要となる教材備品を購入した。図書については、充足率の向上に努めるよう整備を行うとともに、学校図書館蔵書管理システムを使用して管理を行った。 また、音楽備品については、適正な維持管理を行うとともに計画的に整備した。</p>		<p>○備品購入費 6,806千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材備品整備 3,092千円 (内、ふるさと応援寄附金充当額 210千円) 学校図書整備 1,505千円 (内、ふるさと応援寄附金充当額 90千円) 理科教育等設備整備(理科・数学備品) 245千円 音楽備品整備 1,964千円 					
	<p>○需用費 351千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 修繕料(教材備品の修繕) <p>○役務費 328千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽器調整手数料(峰山、網野、弥栄中学校分) 324千円 家電リサイクル料(テレビ1台) 4千円 <p>○使用料及び賃借料 256千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ソフトウェア使用料(全中学校分) (学校図書室蔵書管理システム用) 		成果・課題	<p>○計画的な学習教材、教育備品及び学校図書の整備に努めるとともに、理科(数学)教育設備については、国の補助金を活用し計画的に整備を行うことで、学習指導要領に沿った教育環境を整えることができた。</p> <p>○新学習指導要領の実施を見据え、学習教材や教育設備・備品については、より一層の整備・充実が必要である。</p>				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	19,403千円	19,702千円	299千円	98.4%		
	目	02 教育振興費				(参考)当初予算額		
	事	03 中学校就学援助事業				23,391千円	課	学校教育課
	細事	01 中学校就学援助事業	国補	就学援助費補助金(1/2)	130千円			
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源	国補	特別支援教育就学奨励費補助金(1/2)	759千円			
目的	要保護者、準要保護者及び特別支援学級に入級する生徒の保護者等の経済的負担を軽減する。							
主要な事務・事業の概要	<p>○就学援助費 17,808千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 要保護認定者 14人(H30:19人) 329千円 <ul style="list-style-type: none"> 修学旅行費 287千円 医療費 42千円 準要保護認定者 127人(H30:143人) 15,240千円 <ul style="list-style-type: none"> 学用品費等 5,970千円 給食費 5,702千円 修学旅行費 3,539千円 医療費 29千円 <p>※申請者数 169人(H30:188人) 認定者数 141人(H30:162人)</p> <p>・令和2年度新入学児童生徒学用品費入学前支給分 支給者数 39人 ※令和2年2月21日支給</p>		<p>○特別支援教育就学奨励費 1,595千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象者 32人(H30:29人) <ul style="list-style-type: none"> 学用品費等 541千円 給食費 634千円 修学旅行費 420千円 					
	成果・課題	<p>○就学に必要な学用品費、給食費、修学旅行費等を支援することで、対象生徒の保護者の経済的負担を軽減することができた。</p> <p>○新入学児童生徒学用品費の入学前支給を行ったことで、新入学生徒の保護者の経済的負担を軽減することができた。</p> <p>○制度内容の周知を徹底するとともに、世帯状況や家計状態などを考慮し、公正かつ適正な援助に引き続き努める必要がある。</p>						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	71,121千円	71,156千円	35千円	99.9%	(参考)当初予算額					
	目	02 事務局費										
	事	07 学校情報化推進事業						71,556千円				
細事	01 学校情報化推進事業	繰入金		再編交付金事業基金繰入金		35,369千円						
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源								
目的	小中学校の情報通信ネットワークの整備・維持管理を行うとともに、情報管理の徹底と学校情報化を行う。また、ICTを活用した学習環境を推進する。											
主要な事務・事業の概要	<p>市内小中学校に整備した校内LAN及び校務用パソコン、普通教室用パソコン、情報教室用パソコン及びサーバー機器の維持管理を行うとともに、老朽化した校務用パソコン580台の更新やウイルス対策を行った。また、小中学校（小学3年から中学3年）の普通教室及び、特別支援教室に整備した電子黒板等の維持管理及び利用促進を行った。</p>		<p>市内小中学校に整備した校内LAN及び校務用パソコン、普通教室用パソコン、情報教室用パソコン及びサーバー機器の維持管理を行うとともに、老朽化した校務用パソコン580台の更新やウイルス対策を行った。また、小中学校（小学3年から中学3年）の普通教室及び、特別支援教室に整備した電子黒板等の維持管理及び利用促進を行った。</p>		<p>○使用料及び賃借料 55,361千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有料道路、駐車場使用料 10千円 ・パソコン借上料 50,815千円 <ul style="list-style-type: none"> サーバーシステム借上（8台） 校務用パソコン借上（580台） 情報教室用パソコン借上（798台）ほか ・ソフトウェア使用料 4,536千円 <ul style="list-style-type: none"> 校務支援システム、ウイルス対策ソフト（1,504台分）ほか <p>○備品購入費 315千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務用プリンタ更新（4台） 							
	主要な事務・事業の概要	<p>○旅費（普通旅費） 8千円</p> <p>○需用費 2,421千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン・校内LAN関連消耗品 49千円 ・パソコン・校内LAN関連修繕費（50件） 2,372千円 <p>○委託料 13,016千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務用パソコン導入作業委託料（580台） 10,526千円 ・サーバーシステム・パソコン・校内LAN保守委託料 1,769千円 ・校務支援システム保守委託料 721千円 				<p>○ネットワー利用した遠隔操作などにより、小中学校等に整備した校内LAN、1,802台のパソコン（校務、普通教室、情報教室、タブレット）、電子黒板及びサーバー機器の維持管理を効果的かつ適切に行うことができた。OICT支援員の配置等により、GIGAスクール構想に基づき令和2年度整備予定の児童生徒1人1台タブレット端末等の利活用を促進する必要がある。○新型コロナウイルスによる休校に備え、オンライン授業の訓練を行う必要がある。</p>		<p>成果・課題</p>				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	1,224千円	1,506千円	282千円	81.2%	(参考)当初予算額					
	目	02 事務局費										
	事	15 児童生徒国際交流事業						4,682千円				
細事	01 児童生徒国際交流事業	繰入金		再編交付金事業基金繰入金		35,369千円						
基本計画		26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源								
目的	国際交流事業を推進することにより、語学力の向上はもとより、国際感覚をもちグローバル社会で活躍できる人材を育成する。											
主要な事務・事業の概要	<p>○小学生の国際交流 83千円</p> <p>中学生海外派遣事業で本市と交流のあるニュージーランドのイングレウッド小学校と島津小学校の児童が、ライブ交流や手作りのメッセージカード等の交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消耗品費、通信運搬費、ビデオ撮影・編集委託料 <p>○小中学生文化体験</p> <p>小中学生を対象とした異文化理解・国際交流プログラムを実施した。</p> <p>○中学生の海外派遣 1,141千円</p> <p>語学力の向上及び国際的視野を持った人材を育成するため、ニュージーランドへの海外派遣事業を行った。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため現地研修は中止となったが、事前研修を4回行った。</p> <p>派遣期間：令和2年3月19日（木）～27日（金）の8泊9日間（中止）</p> <p>派遣対象生徒：中学2年生 15人（選考により決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消耗品費、中学生海外派遣事業費補助金、印刷製本費 ほか 				<p>○小学生国際交流及び小中学生文化体験を行い、国際交流事業を推進することにより語学力の向上及び国際的視野をもった人材を育成することができた。</p> <p>○中学生海外派遣は事前研修のみの実施となった。天災等の影響により現地に生徒を派遣できない場合のプログラムについても充実を図る必要がある。</p> <p>○国際的視野をもった児童生徒を育成するため、国際交流事業の取組の充実を図る必要がある。</p>		<p>成果・課題</p>					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費						98.4 %				
	目	04 外国青年招致事業費	25,853千円	26,259千円	406千円	(参考)当初予算額						
	事	01 外国語指導助手招致事業				28,080千円			課	教育総務課		
細事	01 外国語指導助手招致事業		繰入金	ふるさと応援基金繰入金				10,000千円				
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源									
目的	自治体国際化協会（JETプログラム）の斡旋を受け、6人の外国語指導助手（ALT）を招致・任用し、小中学校で授業等の補助を行うことで、外国語教育及び国際理解教育の促進を図る。											
主要な事務・事業の概要	○外国語指導助手の任用経費（6人分）		22,652千円	○負担金		1,404千円						
	・報酬		19,558千円	・自治体国際化協会負担金		1,234千円						
	・社会保険料、労災保険料、雇用保険料		3,094千円	・来日直後オリエンテーション参加費用負担金		170千円						
	○外国語指導助手支援員の任用経費		184千円									
	・賞金（通訳補助等）		64千円									
・謝金		120千円										
○外国語指導助手等の旅費		669千円										
・帰国旅費（1人）		230千円										
・費用弁償、研修旅費（ALT、職員）		439千円										
○外国語指導助手の賃貸住宅に係る経費		944千円	成果・課題		○外国語指導助手を各中学校に1人ずつ配置し、週1回程度各小学校に派遣することで、児童・生徒が生きた外国語や外国文化を学ぶ機会を直接的・継続的に確保することができ、外国語教育と国際理解教育の促進につなげることができた。 ○切れ目のない継続的な活用のため、ALTの心身の負担を軽減するため生活支援等の充実が必要である。							
・住居の敷金、礼金等（峰山、丹後、久美浜町域）		811千円										
・住宅保険（峰山、丹後、久美浜町域）		71千円										
・備品修繕費等		62千円										

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費						99.4 %				
	目	04 外国青年招致事業費	4,198千円	4,223千円	25千円	(参考)当初予算額						
	事	02 国際交流員招致事業				4,365千円			課	学校教育課		
細事	01 国際交流員招致事業		主な財源									
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実											
目的	一般財団法人自治体国際化協会の「語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）」を活用して国際交流員を任用し、現代社会のグローバル化に対応する。											
主要な事務・事業の概要	国際交流員を学校教育課に配置し、国際交流や異文化理解について、その専門性で見識や経験を活かした指導、助言を行った。											
	○報酬、共済費		4,027千円									
	・国際交流員報酬（1人） （280千円×4か月（平成31年4月～令和元年7月）） （300千円×8か月（令和元年8月～令和2年3月））											
	・社会保険料、雇用保険料											
○研修にかかる経費		65千円										
・費用弁償、普通旅費												
○自治体国際化協会負担金		106千円	成果・課題		国際交流員を配置し、国際交流関係事業の実施や児童生徒の国際理解教育の推進を図ることができた。							

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	8,029千円	8,040千円	11千円	99.8 %		
	目	03 奨学費				(参考)当初予算額	課	教育総務課
	事	01 奨学金事業				16,564千円		
細事	01 奨学金事業	主な財源	繰入金 奨学基金繰入金	2,664千円	繰入金 谷口謙・未来応援基金繰入金	5,312千円		
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実							
目的	経済的に困窮している世帯で勉学意欲のある生徒や学生に対し、奨学金の給付及び貸付を行い、就学を支援する。							
主要な事務・事業の概要	<p>経済的に困窮している世帯（家庭）で勉学意欲のある大学生等を対象に奨学金を給付した。また、令和元年度大学等在学者及び令和2年度大学等進学予定者を対象に、奨学金の貸付を行った。</p> <p>○奨学金選考・検討委員会経費（2回開催） 53千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報酬 委員 4千円（半日）×（6人×2回） 48千円 ・費用弁償 5千円 <p>○給付奨学金 2,664千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生等 864千円 <ul style="list-style-type: none"> 月額12千円×12月×6人 月額10千円×12月×15人 1,800千円 		<p>○貸付奨学金 5,312千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学支援金（4人） 2,512千円 <ul style="list-style-type: none"> 大学生等 1,000千円×2人 大学生等 280千円×1人 大学生等 232千円×1人 ・入学支度金（4人） 2,800千円 <ul style="list-style-type: none"> 進学予定者 700千円×4人 					
			<p>成果・課題</p> <p>○厳しい経済状況の中で、勉学意欲と能力のある生徒及び学生への就学支援を行うことにより、困窮世帯の生徒及び学生が勉学に取り組むための環境を整えることができた。</p> <p>○近年、応募者が減少傾向であるため、周知方法を工夫するとともに制度設計を検討する必要がある。</p> <p>○文部科学省における高等教育の無償化制度の設置（令和2年4月実施）に伴い、今後の市奨学金制度の見直し等を検討する必要がある。</p>					

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																		
	項	01 教育総務費	727千円	728千円	1千円	99.8 %																				
	目	03 奨学費				(参考)当初予算額	課	教育総務課																		
	事	02 奨学基金				23千円																				
細事	01 奨学基金	主な財源	財産収入 奨学基金利子収入	57千円	諸収入 奨学資金貸付償還金滞納繰越分	670千円																				
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実																									
目的	経済的理由により大学等への修学が困難な者に対し、奨学金を給付することを目的とした奨学基金への積立金																									
主要な事務・事業の概要	<p>○奨学基金積立金 670千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧網野町で貸し付けた奨学資金償還金分 670千円 <p>○奨学基金積立金（利子分） 57千円</p> <p>(単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">平成30年度末 現在高</th> <th colspan="3">令和元年度中増減額</th> <th rowspan="2">令和元年度末 現在高</th> </tr> <tr> <th>繰入金</th> <th>運用利子</th> <th>積立金</th> </tr> <tr> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>①-②+(③+④)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>139,087</td> <td>2,664</td> <td>57</td> <td>670</td> <td>137,150</td> </tr> </tbody> </table> <p>(充当：1事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奨学金事業 2,664千円 		平成30年度末 現在高	令和元年度中増減額			令和元年度末 現在高	繰入金	運用利子	積立金	①	②	③	④	①-②+(③+④)	139,087	2,664	57	670	137,150	<p>成果・課題</p>					
	平成30年度末 現在高	令和元年度中増減額			令和元年度末 現在高																					
繰入金		運用利子	積立金																							
①	②	③	④	①-②+(③+④)																						
139,087	2,664	57	670	137,150																						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	208千円	209千円	1千円	99.5%		
	目	03 奨学費				(参考)当初予算額		
	事	03 谷口謙・未来応援基金				129千円	課	教育総務課
	細事	01 谷口謙・未来応援基金	主な財源	財産収入	谷口謙・未来応援基金利子収入	41千円		
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	諸収入		奨学資金貸付償還金	167千円			
目的	経済的理由により大学等への進学及び修学が困難な者に対し、奨学金を貸し付けることを目的とした谷口謙・未来応援基金への積立金							
主要な事務・事業の概要	○谷口謙・未来応援基金積立金		167千円					
	・京丹後市貸付奨学金で貸し付けた奨学資金償還金分		167千円					
	○谷口謙・未来応援基金積立金(利子分)		41千円					
		(単位：千円)						
		平成30年度末		令和元年度中増減額		令和元年度末		
		現在高		繰入金		運用利子		積立金
		①		②		③		④
		80,495		5,312		41		167
								①-②+(③+④)
								75,391
		(充当：1事業)						
		・奨学金事業		5,312千円				
								成果・課題